

国際連合食糧農業機関（FAO） 駐日連絡事務所

世界の食料安全保障や栄養改善に向けた取組の共有とネットワークの構築

- ・世界における食料安全保障や栄養改善に向けた取組を、日本の皆様に幅広く共有します。
- ・様々なパートナーと連携し、FAOが有するグローバルな知見をより多くの方に共有する仕組みを作ります。

＜目標・取組＞

- ①2021年に開始した大学や研究機関とのネットワークなどを通じた情報共有と意見交換の場をさらに強化する。
- ②世界農業遺産の認定地域などを含め、地方自治体や日本各地の団体・個人など幅広いパートナーとのネットワークを作り、グローバルな知見の共有と意見交換を実現する。

＜達成状況（2023末時点）＞

- ①大学・研究機関とのネットワークなどを通じた情報共有・意見交換のセミナーを2021年以降7回実施（2023年12月時点）。また、同ネットワークに世界の食料安全保障や栄養改善に向けた取り組みを頻繁に共有。その他、学校、官公庁、企業、NGO等幅広い団体との情報共有イベントを実施・参加。
- ②地方自治体や日本各地の団体・個人など幅広いパートナーとのネットワークを作り、以下を含め様々な形でグローバルな知見を共有し意見交換を実現。
 - (1) 世界農業遺産認定地域の認定後の経済効果に関する分析レポートの作成・発表
 - (2) 世界農業遺産認定地域に向けたイベントや勉強会を開催（英語でプレゼンを実施する研修や高校生や地元の方に向けたレクチャーなど）
 - (3) 宮崎県や同県の高校、及びG7各国の高校生と連携し、G7農業大臣会合における高校生のユース宣言に向けたワークショップを実施
 - (4) FAOのWorld Food Forumにて、世界農業遺産認定地域学生が世界に向けて意見を発表する場を提供
 - (5) 横浜市との連携（FAO事務局長による横浜市の汚泥資源化施設や農家訪問、グローバルな知見を共有するイベントへの参加、市内高校生・大学生に向けた授業・ワークショップの開催）
 - (6) NPOと連携し、年間を通じて様々な交流を実現

<関連情報>

<https://www.fao.org/japan/jp/>

(東京栄養サミットアクションプランにおいて賛同した項目)

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 食料システムの変革 | <input type="checkbox"/> 個人の栄養に関する行動変容の促進 |
| <input type="checkbox"/> 食関連産業のイノベーションの推進 | <input checked="" type="checkbox"/> 途上国・新興国の栄養改善への支援 |

【企業・団体の概要】

国際連合食糧農業機関 (FAO) は、飢餓の撲滅に向けた世界の取組をリードする国連の専門機関です。私たちの目的は、人々が健全で活発な生活をおくるために十分な量・質の食料への定期的アクセスを確保し、すべての人々の食料安全保障を達成することです。FAO駐日連絡事務所は、日本とFAOとの連携をさらに強化するため、日本の資金的・人的援助と FAOの活動との連絡調整やFAOの活動について日本の人々の認識の向上を推進しています。

contact : FAO-Japan-Info@fao.org